

国保歯科診療所が面白い

各地の特徴的な活動

第3回

東日本大震災津波被害・台風10号豪雨災害
災害と巡回歯科診療車

岩手県・岩泉町国保岩泉歯科診療所長

岩田信浩

巡回診療の開始

私が勤務する岩泉町国保岩泉歯科診療所は岩手県沿岸北部に位置し、東は太平洋に臨み西は盛岡市をはじめ多くの市町村に接する広大な地域、岩泉町に存在する（図）。日本三大鍾乳洞の龍泉洞、マツタケ等が有名で風光明媚な土地である。東西51km、南北41kmもの広さのため、以前は周辺地区に歯科診療所が存在しなかった。歯科に理解のある町は、歯科のない地域住民の口腔を含む全身の健康のため歯科診療車を整備し、平成5年より無歯科医地区5か所から巡回診療を開始した（写真1）。

当時は全歯が齲蝕の児童がほとんどで、まさに治療の嵐であったが、現在は定期健診中心の巡回診療となっている。交通弱者の方々は町中心部の歯科医院に半日、一日がかりで治療に赴いていたが、現在はこちらから出向き、徒歩での通院が可能となっている。

スタッフに感謝

当診療所は現在大型診療車による8か所の巡回診療、ポータブル完備の普通乗用車での居宅・老健・特養・グループホーム等の訪問診療や口腔ケアも行っている。町内関係機関とも連携し、こども園・保育園・小中学校のフッ化物洗口も施行しており、町民の口腔改善も顕著である。岩泉町の歯科への思い、歯科衛生

図 岩手県岩泉町の位置

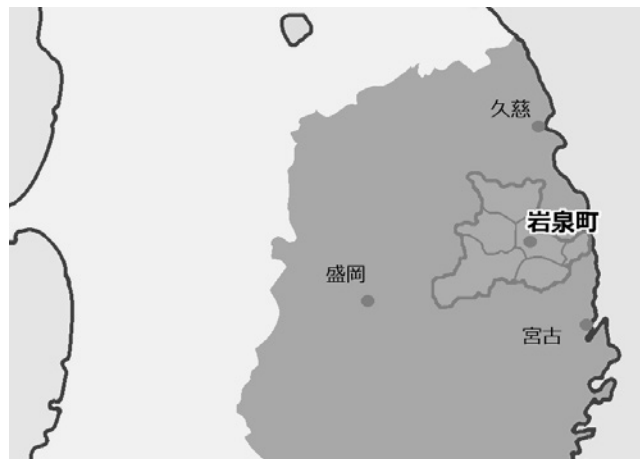


写真1 巡回移動車

士を中心としたスタッフに感謝しかない。

岩泉町はこの数年で2度の大きな災害に直面した。平成23年の東日本大震災津波被害と平成28年の台風10号豪雨災害である。多くの町民、患者様、その家族等



写真2 台風10号の豪雨災害



写真5 自家発電機等



写真3 国道455号崩落



写真6 診療車リフター



写真4 診療車ユニット。



写真7 仮設住宅での診療

の尊い命が奪われた。病院、診療所もかなり被災し休診に追い込まれた（写真2、3）。診療車はユニット2台、デジタルレントゲン撮影も可能で自家発電機2台と大型給水タンクを搭載している（写真4、5）。リフターも完備しており、車いすのまま入室可能、まさに“動く診療所”である（写真6）。

多くの被災者に威力を発揮

燃料と道路があればあらゆる場所で診療可能となる。災害後も避難所や仮設住宅に診療車で駆けつけ治療、ポータブルにて室内での診療と重宝した（写真7）。



写真8 高さ12mの水門をはるかに超えた巨大津波



写真9 グリーンピア三陸みやこでの応援歯科診療。

津波、水害で義歯を紛失した方、ストレスで疼痛を発現した方等、多くの被災者に威力を発揮した(写真8)。東日本大震災では岩手県歯科医師会からの依頼を受けて、隣接する宮古市での診療も実施し、全国から来ていただいた応援の歯科医師も診療車の充実さ、機動力に驚いていた(写真9)。なお、教科書『災害歯科医学・医歯薬出版』にも診療車を掲載していただいた(写真10)。

当診療所は歯科医師1名、歯科衛生士1名、運転手兼事務1名の最少人数である。震災で20年勤務の歯科衛生士は夫婦それぞれの実家、自宅をすべて跡形もなく流され、財産も思い出の品も失った。災害直後、ハードは素晴らしくても、私一人では何も出来ない状況であった。衣食住もガソリンもままならない状態の彼女にすぐにつけていただき、十分な対応が可能となった。

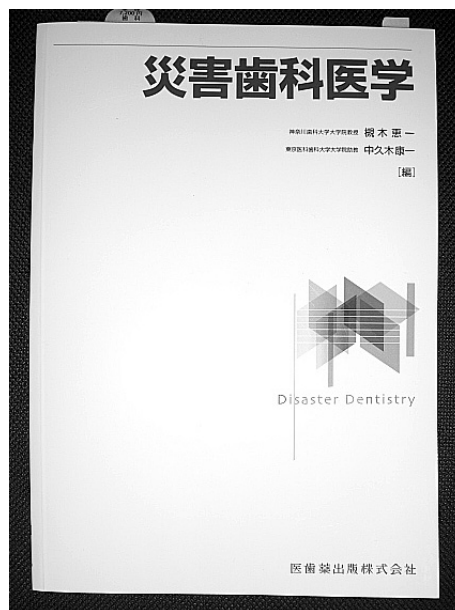


写真10 教科書表紙。



写真11

私がもし彼女の立場であったなら、あの状況ですぐに職場を優先することは出来なかったと思う。プロ意識やプライドを持って仕事に従事してきた自負はあった。しかし、あの予想も出来なかった天災で家族、親戚、地域全体が被災したなかで、仕事を優先し、行動することが可能であったか？ 自信はない。

多くの災害により多くのことを学んだ。教訓を無駄にしないよう町民の方々に喜ばれる行動をし、被災者の方々に寄り添い、復興の力になれるよう努力することが大事である。この原稿を書いている時にも台風19号豪雨災害で岩泉町を含めた多くの方々が被災した。被災地域では皆さんが頑張っている。これからも被害のあった市町村のことを忘れずに、引き続きご支援いただければ幸いである(写真11)。